

報告事項 キ

鳥取県ICT活用教育推進協議会（第2、3回）の概要について

鳥取県ICT活用教育推進協議会（第2、3回）の概要について、別紙のとおり報告します。

平成26年9月5日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

## 鳥取県 ICT 活用教育推進協議会（第 2, 3 回）の概要について

平成 26 年 9 月 5 日  
教育センター

鳥取県における ICT を活用した教育を推進するためのビジョンに関し専門的な立場から検討し提言するため、有識者等で構成する第 2 回及び第 3 回 ICT 活用教育推進協議会を以下のとおり開催しました。

### <第 2 回>

#### 1 開催日時・場所

- (1) 日時 平成 26 年 8 月 8 日（金） 13 時～15 時
- (2) 場所 教育センター第 1 研修室

#### 2 出席者

##### (1) 委員

名前	所属・職名等
今井 正和	鳥取環境大学人間形成教育センター長兼副学長補佐兼情報メディア副センター長
大島 律子	静岡大学大学院情報学研究科教授
稲垣 忠	東北学院大学大学院人間情報研究科准教授（テレビ会議での参加）
丸山 悟	日南町教育委員会教育長
福嶋千寿子	倉吉市立久米中学校校長
田中 良祐	(株)鳥取県情報センター事業推進部文教推進グループ長

- (2) 事務局 教育センター所長、その他関係課職員

#### 3 主な意見

##### (1) 授業のあり方・研修のあり方

- ・ 21 世紀型スキル獲得のため「ICT 活用」及び「より活用レベルの高い協働的な学び」双方の推進を図り、教育センターはそれに合わせた研修体系で研修を設計し啓発を行うことが必要
- ・ ICT 支援員を支援するための研修も必要。非常勤でも受講可能な体制を検討できないか

##### (2) 人的配置（ICT 支援員等）

- ・ ICT 機器のサポートのみならず現場のニーズにマッチする多面的な支援体制が必要
- ・ 学校現場だけではなく ICT 活用を推進する部署にも専門的(SE 等)な支援員配置は必要

##### (3) 基盤整備

- ・ 基本的に総務省（フューチャースクール推進事業ガイドライン）や文科省（教育の IT 化に向けた環境整備 4 年計画）の計画に準拠でよいが、各学校のニーズに応じたものとする 것도重要
- ・ 県立学校と市町村立学校では設置主体が異なるため、それぞれが指針とできる提言を意識する

##### (4) その他

- ・ BYOD(Bring Your Own Device)については結論を早急に出さずに 4 年の間に状況をみながら検討できるように提言する
- ・ Torikyo-NET 回線の運用のあり方や管理運営についての議論が必要
- ・ 今後も継続して ICT 活用推進の現状把握と推進計画を検討する会を開催する必要がある
- ・ 情報の基幹部分に関しては行政部局と教育委員会と切り離して考えられないため、県全体でビジョンを実現していくためには会議体を、行政部局も交えてうまく運営することが重要になる

## <第3回>

### 1 開催日時・場所

- (1) 日時 平成26年9月1日(月) 13時30分～16時
- (2) 場所 教育センター第1研修室

### 2 出席者

#### (1) 委員

名前	所属・職名等
今井 正和	鳥取環境大学人間形成教育センター長兼副学長補佐兼情報メディア副センター長
大島 律子	静岡大学大学院情報学研究科教授 (欠席)
稲垣 忠	東北学院大学大学院人間情報研究科准教授
丸山 悟	日南町教育委員会教育長
福嶋千寿子	倉吉市立久米中学校校長
田中 良祐	(株)鳥取県情報センター事業推進部文教推進グループ長

- (2) オブザーバー 永野 直(千葉県立袖ヶ浦高等学校教諭)
- (3) 事務局 教育センター所長、その他関係課職員

### 3 主な意見

#### (1) 授業のあり方・研修のあり方

- ・ICT活用スキル向上の研修も必要だが、時代に求められる授業への変革を促す教員の研修が重要。
- ・ICTを活用した授業にも段階がある。いずれにしても最終的なねらいとしては21世紀型の学力を身につけるものでありたい。

#### (2) 人的配置 (ICT支援員等)

- ・まず物的環境を整え、人的支援を段階的にバランスよく行うことが必要。
- ・例えば図書館司書や司書教諭に授業支援をしてもらう体制を作るなど、現場の先生の背中を押す仕組みをつくる必要がある。

#### (3) 基盤整備

- ・4年先を見据えた計画とするが、継続して現状把握と推進計画を検討する会を開催し、世の中の動向を反映させることが必要である。
- ・ビジョンによる施策の運用を決定する仕組みの構築について提言の中に盛り込む。

#### (4) その他

- ・BYOD(Bring Your Own Device)については、実現の方向で検討や判断できる仕組みを提言。
- ・教員のICT活用指導力調査(文科省)の結果については、その要因についての丁寧な分析が必要。

### 4 オブザーバーからの意見

- ・ICTは今までのものをデジタルに置き換えるのではなく今までの授業に広がりをもたせるもの。
- ・子どもはデバイスの使い方を知らない。授業の中で体験させ、使い方を知らせることが大切。
- ・情報モラルに関する懸念はよりよい活用により払拭される。また、ICT活用によりプレゼンテーションの力や自己表現の力が高まると実感している。

### 5 今後の予定

- ・10月14日に第4回ICT活用教育推進協議会を開催し、10月中に提言をとりまとめる。